

量子エネルギー変換材料分野

(エネルギー・マテリアル融合領域研究センター所属)

卒業生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。令和8年度の量子エネルギー変換材料分野は、柴山環樹教授、中川祐貴助教、学術研究員3名、博士課程1名、修士課程8名、学部生5名の計19名でスタートしました。マレーシアの Swinburne University of Technology より2023年度に修士課程に入学した Azri 君は2026年度から博士課程2年生になりました。柴山教授は2025年度より工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター長と全学のグリーントランスフォーメーション先導研究センターの副センター長に任命され、多忙な日々を過ごしております。

研究テーマは、次世代半導体などの過酷環境用先進材料の開発、超高压電子顕微鏡・収差補正 STEM を利用した材料のその場観察研究、ハイエントロピー合金の作製と評価、水素化物系固体電解質材料の開発、水素貯蔵材料の開発と TEM 解析など相変わらず多岐にわたっていますが、電子顕微鏡による材料解析を武器に研究を日々進めています。2025年度は中川助教が工学研究院の若手教員奨励賞、Azri 君が日本顕微鏡学会第68回シンポジウムの優秀発表賞、M2 小笠原君が修士論文の優秀発表賞、B4 東仙君が卒業論文の優秀発表賞をそれぞれ受賞するなど活躍しましたが、皆で更に盛り上げていきたいと思っております。

2025年度は中庭でのジンパ、鍋パーティー、追いコンなどのイベントを行いました。また久々に機械知能工学科のソフトボール大会にも参加しました。結果は残念なものになりましたが、2026年度は勝利を目指してまた参加する予定です。イベントへの卒業生の先輩の飛び入り参加を歓迎します。皆さま、機会があればぜひ研究室へお立ち寄りください。卒業生の皆様の近況報告を、学生・教員一同、心よりお待ちしております。

